

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立晴海西小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】晴海西小学校の目標をもとに、児童一人一人の課題を把握し、個人目標を設定する。	
	児童・生徒の学力の課題
国語	【4月】「令和6年度学習力サポートテスト」における「書くこと」において、区内平均を5年生が4.6ポイント、6年生が9.2ポイント下回っている。また、自分の考えを明確にして段落分けをして書く、中心となる語や文を見つけて要約する、に課題が見られる。 【10月】自分の意見を表現することに課題がある。自分の意見を文章に表すことが苦手な児童が多く、他者との話し合いの際に、自信をもって発表や共有するまでに至らない。また、自分の意見を形成するために必要な情報を読み取る力や自分の考えと結び付けられる力を高めると、より主体的に学習に取り組むことにつながる。
算数・数学	【4月】「令和6年度学習力サポートテスト」において、4・5・6年生全て、基礎的な問題の平均が区内平均を下回り、特に、「数と計算」の領域において区内平均を下回っている。また、5・6年生においては、データの活用で、5年生が4ポイント、6年生が2ポイント区内平均を下回っている。 【10月】情報技術の活用に求められる「データの活用」に課題がある。表やグラフを読み取ることはできるが、十分な比較や考察までに至らない。「データの活用」に重点を置くことで、他教科でデータ傾向や特徴を捉える情報収集する力や目的に応じた表やグラフを用いての表現する力の向上にもつながる。
社会	【4月】「令和6年度学習力サポートテスト」において、5・6年生は「主体的に取り組む態度」は区内平均を下回っている。6年生については、「思考・判断・表現」も区内平均を下回っている。また、地図、人口の変化など、資料を読み取ることや、調べた結果をグラフにまとめることに課題が見られる。 【10月】課題解決に必要な教材や資料を自ら選択する、情報収集する力に課題がある。また、社会的事象に対して、当事者意識をもって自分に意見を形成することができず、習得した知識を活用するまでに至っていない。児童一人一人が課題設定をし、自らの「好き」を探究できることが、学びへの動機付けにもつながる。
理科	【4月】磁石の性質、植物のつくり、電気を付けるための条件について正しく説明したり、結果を考察し、因果関係を捉えたりすることに課題が見られる。また、実験方法において、道具の使い方や失敗した要因から、正しい方法を導き出すことに課題が見られる。 【10月】問題や課題に対して、自らで実験や観察方法を設定・計画する力に課題がある。理科的知識が下学年のうちに習得できておらず、自分の意見を形成し、他者と対話をするまでに至っていない。興味・関心を広げ、実験や観察等の学習方法を選択できるようになると、当事者意識をもって学習に取り組むことにもつながる。
英語	【4月】「令和6年度学習力サポートテスト」英語の活用について区内平均を3ポイント下回り、「アルファベット」の書き「英作文」については、それぞれ5ポイント・2ポイント区内平均を下回っている。 【10月】下学年で体験しながら習得した単語や文を読み取る力が、高学年で十分に生かされていない。聞く、読むのみでなく、「表現する」活動を多く取り入れることで、話す力の向上にもつながる。
体力向上	【4月】・様々な地区から児童が集まったことにより、児童の運動経験の差が顕著である。 ・個人差が大きく、疲れやすい児童や体の動きがぎこちない児童が少なくない。 ・体力テストの結果では、投力が低い。 【10月】多くの学年で運動能力が二極化しており、児童一人一人に運動経験の差が顕著である。児童一人一人が自らの課題を把握し、目標を設定することで、必要感をもって積極的に運動に取り組むことにつながる。

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】授業での言語活動を通して、区の平均を特に下回っている傾向にある話すことや聞くこと、書くことの言語能力を育成する。学力サポートテストでは、各学年で平均点を区平均より＋点とし、単元平均から５点以下の単元について２点以上の上昇、３点以下の単元について１点以上の上昇を目指す。 【１０月】他者と協働するためにも、自分の考えを文章で表す、調べたことを整理して文章に表す等の力を高める。また、言語を用いて情報を理解し、文章や発話により表現するために必要な言語能力の育成も目指す。	・R6年度、要約が苦手な児童が多かったため、要約のポイントを繰り返し指導する。 ・漢字の書き取りにおいて、朝学習等での継続的な指導を行う。 ・児童が考えたことを友達に伝えたり聞いたりし、違いを認め合う言語活動を増やす。 ・図書資料やウェブサイトでの調べる場面を設け、収集した情報を要約したり、自分の言葉で説明したりする活動を設定する。 ・国語を軸として、全教科において自分の考えを文章でまとめる場面を設け、教科横断的に書く力を育成する。
算数・数学	【４月】図形やデータの特徴や傾向を分析したり、問題に対して根拠をもって考察したりできる力を育む。また、自分事として主体的に算数を学習する児童を育成する。学力サポートテストでは、各学年で平均点を区平均より＋点とし、単元平均から３点以下の単元について２点以上の上昇、２点以下の単元について平均点以上を目指す。 【１０月】データの傾向や特徴を捉えて比較や考察をする、目的に応じた表やグラフを作成する等の力を高めていく。また、困難な問題に対しても解決しようとする粘り強さやレジリエンスも育んでいく。これらの力を支える確かな知識を得るために学習方法や家庭学習の内容を自律的に決められる児童の育成を目指す。	・ICTを活用し、図形を動的に変化させる、多量のデータを収集・分析する等の指導を充実していく。 ・児童が自分事として考えられる問題を提示する、探究的な単元構成とし児童自らが問題解決する等、児童の主体性を促す授業改善を図る。 ・授業の終末で適用問題に取り組み、知識・技能の再確認、学習内容を活用する時間を設ける。
社 会	【４月】基本的な知識・技能を活かして、地域（晴海、中央区）やそれぞれの土地の課題を見い出したり、主体的に解決しようとしたりする児童を育成する。学力サポートテストでは、各学年で平均点を区平均より＋点とし、単元平均から３点以下の単元について２点以上の上昇、２点以下の単元について平均点以上を目指す。 【１０月】探究的な要素を含めた自由進度学習を通して、児童一人一人が社会的な事象の中の「好き」を粘り強く追究する力を育む。また、インターネット等での情報収集する、スライドを見やすく工夫して表現する等、デジタルを最大限に活用できる力を育む。	・多角的に考えられるように、複数の資料から比較、判断する機会を増やす。 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間を通して、教科横断的に地域の様子や伝統文化、先人の働きを学ぶ。 ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることができるよう、複数の資料を効果的なタイミング、組み合わせで提示する。 ・社会における課題に対して、自分たちができることを選択、判断したり、それについて根拠や理由を挙げて議論したりする学習活動を取り入れる。
理 科	【４月】自然を活用した学習活動を生かし、生命や地球に関する知識・技能を育てる。児童自らが実験計画や考察を行い、主体的に問題解決しようとする態度を育てる。学力サポートテストでは、各学年で平均点を区平均より＋点とし、平均以上の単元は１点以上の上昇、平均点以下の単元について３点以上の上昇を目指す。 【１０月】探究的な要素を含めた学習にすることで、児童一人一人が実験や観察方法を選択し、学習を調整しながら、課題を追究する力を育む。また、多様な他者（異なる方法・結果）との対話を通して、合意形成しながら考察する力を育む。	・自然を活用した学習として、柏、赤城、本栖での宿泊や各校外学習での自然体験、区のプラネタリウムを活用する。 ・中学年で実験・観察の基礎を重点的に学び、高学年では児童自らが実験を計画するようにする。 ・考察の時間を１０分以上確保し、児童同士の意見交流や全体での検討を充実させる。 ・意図的に事象を提示し、共通体験を基に問

		題作りを行う。
英 語	【４月】「読むこと」を中心に知識・技能を身に付け、身に付けた力をすすんで表現する児童を育成する。学力サポートテストでは、平均点を区平均より＋２点とし、単元平均の１点以上の上昇、「活用」の単元は３点以上の上昇を目指す。 【１０月】英語で得た力を他学習や生活場面で活用する学習の構成にし、英語を使う必要感をもって学習に取り組む姿を育む。また、外国籍の児童が母語の力を引き出すために生成 AI を活用できる力を育む。	・授業や単元を基礎・基本を身に付ける→身に付けたことを活用・表現する、という構成にする。 ・学習した英語を活用する体験を充実させる。（英語専科や ALT に対してのプレゼンテーションや日常生活の疑似体験等） ・高学年の授業にて、ALT によるリスニング問題を設け、英単語や英文を読み取る力を育成する。
体力向上	【４月】投力と跳躍力に向上に重点を置き、児童自らが運動や健康に対する目標や課題を立て、すすんで運動に取り組む態度を育てる。体力テストでは、全学年の全ての種目で昨年度数値よりの上昇、区平均以下の種目は、区平均以上になることを目指す。 【１０月】授業において児童自ら課題や目標を立て、解決のため粘り強く運動に取り組む態度を育む。また、グループ活動を多く取り入れ、児童間で運動のコツやポイントを伝えたり、動画撮影等のデジタルを活用できたりする力も育む。	・朝運動の時間を設け、継続的になわとびに取り組む。 ・体育の授業において、各運動の技能ポイントやコツを十分に指導する時間を１０分以上設ける。 ・授業において、十分な運動時間を確保できるようタイムマネジメントに努める。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	・ミライシード（ドリルパーク）等で児童各々の進度や到達度を把握し、個別に課題を出したり、指導方法を工夫したりする。 ・１単位時間の学習の流れを個別→ペア（グループ）→全体とし、一人一人の考えのよさを共有したり、異なる考えを組み合わせたりする。

探究的な学びの充実	
取組	・各教科、領域で課題解決的な学習及び既習事項の活用を行いながら、児童が課題を的確に捉え、解決に向けた手段や自ら計画を立てられる単元構成にする。 ・生活科や総合的な学習の時間の「まとめ・表現」を国語科の学習内容と系統付けて学習を計画する。

読解力の育成	
取組	・週１回、１０分間の朝読書の時間を設け、読書に親しめるようにする。 ・「Ymokka」を導入し、多様な種類の本に親しめるようにすることで、多くの言葉や表現に触れる機会を増やす。 ・国語科の物語文や説明文等の学習過程を習得→活用→探究とする。習得で教科書の読み取りを十分に行い、活用で共通の図書資料の読み取った内容を共有する時間を設け、読解力を育成する。